

会費納入のお願い

正会員、賛助会員の一部の方に昭和57年度、および58年度会費の未納の方がおられますが、事務整理の都合上是非ご納入下さるようお願い致します。

なお、会費納入は原則として、北海道銀行当別支店（普通No. 128259）宛に払込み下さい。その他、住所（氏名）変更などについては早目に御通知の程をお願い致します。
（会計委員会）

原稿募集について

次号（第2巻、第2号）の発行は本年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切り日は9月30日（金）と致しました。

期日厳守の上、ご投稿をお願い申し上げます。本誌、投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。
（編集委員会）

編集後記

会誌は本年度より年2回発行にふみきり、本号（第2巻、第1号）の原稿募集は3月末に締切ったが、前回創刊号の発行が大巾に遅れこの3月初旬に配布、発送したので、投稿数の激減をおそれたが杞憂に終りここに120頁を越す内容の見込が立ち安堵の胸をなでおろした一幕であった。

投稿整理に追われた4月初旬は例年になく春の訪れが早く、平地の雪はみるみる消え陽炎ゆらぐ黒い大地に石狩沃野の農作業も順調の模様、われわれの編集事務も調子よく、今回の発行期日は守れるであろうとの見通しが立った。

平年より10日前後早い桜の満開もその後の春の嵐に花吹雪と散り始めた花冷えの頃に初校もぼつぼつ上り始め、前回の不手際を繰返さぬようとの意気込みから著者校正も規定通り2回とし、確実に願いますとの無理なお願いにも投稿各位には非常なご協力をいただき感謝のほかはない。

なお総説は長年にわたり「栄養と実験齟齬」を手掛けられた田村俊吉教授の集大成である。ご多忙中にも拘らず快く長文を引受けられたことに心より感謝申し上げたい。

また前回の海外レポートに替え今回は学内研究施設紹介とした。薬学部との共同利用のアイソトープ研究センターは全国に知名である。今後のユニークな他大学に比をみない研究業績の続出を期待している。他の一つは文部省私学助成金による最新の附属機器を備えた走査電子顕微鏡についてお願いした。ともに紹介の一文を草された方々に御礼を申し上げる。

その他、さる3月12日行った本学会第2回総会時の一般講演15題の抄録であるが、早くもこの折の演題の投稿があり、この記録は活字を小さくした、御諒承の程を。

今年末第2号の発行を心掛けているが会員各位にもさらに投稿の盛んなることを願ひ編集後記とする。
（Y・O生）